

目指す学校像 『厚い信頼で結ばれた学校』

《3月号》



三原台中だより

令和7年3月7日発行
練馬区立三原台中学校
校長 山崎 二郎



令和6年度 学教評価アンケートの結果より



早春の候、三寒四温を実感する今日この頃となりました。今年度の教育活動もあと少しとなり、三原台中生一人一人が今年度のまとめと同時に新たなステージに向けて準備をしております。

さて、今年度の学校評価がまとまりましたのでお知らせします。保護者の皆様には学校評価へのご協力ありがとうございました。いただきましたご意見を参考に、令和7年度の教育活動の改善に努めてまいります。

1 回答数について

令和6年度の学校評価アンケートを集計いたしましたのでご報告いたします。アンケートへのご協力をいただきまして誠にありがとうございました。241名の保護者の方から回答していただきました（在籍生徒は495名）。「あてはまる：7点 だいたいあてはまる：5点 あまりあてはまらない：3点 あてはまらない：1点」とし平均値を比較すると、生徒は昨年度より0.1ポイント上がり、保護者も昨年度より0.23ポイント上がりました。また、ご回答いただいた保護者の方は約半数でした。

2 全体の傾向

保護者アンケートでは20項目全てでポイントが上がりました。

生徒アンケートでは、17項目中、15項目が上がり、ポイントが下がったのは「8 温かみのある生活指導」「11 いじめ・不登校対応」の2項目でした。

3 内容ごとの傾向

保護者アンケートの中で特にポイントが上がった項目上位3つは、「19 学校だより」「5 評価・評定」「18 地域連携」でした。今年度は、定期的なたよりの発行やホームページの更新を再開することができました。また、評価・評定については、2年生の段階から通知表の評定と領域診断テストの結果を用いて、都立一般入試の換算点を出してみるなど、各教科の評価・評定の説明だけでなく、自分の学力がどのように進学に反映されるのかなど、今の頑張りが生かされていくことを伝えてきました。生徒の諸活動では、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同じ5類になった現在の教育活動が地域の感染状況を判断しながらコロナ禍以前同様に活動できるようになってきました。そのため、地域の行事にボランティアや部活動の一貫として参加しています。

生徒アンケートでポイントが下がった2項目の肯定的な意見は「8 温かみのある生活指導」が89%から84.5%に、「11 いじめ・不登校対応」が87%から83.9%になりました。2項目とも例年通り、学年が進むにつれて肯定的な意見が増えています。中学生の発達段階もあり、低学年ほど言葉使いや環境への不適應、友達への接し方等の課題が多く発生します。その都度、個別対応と学年全体への注意喚起を行い、徐々に減少しています。そのためか、注意を受ける立場である生徒は「8 温かみのある生活指導」が89%から84.5%に減少したのに対し、保護者アンケートでは、ポイントが上がった4番目になっており、肯定的な意見が61%から67.6%に増えています。これは、注意を受ける生徒当事者とその成長を見守っている保護者の方の違いがあるのかもしれませんが。

全ての項目で保護者より生徒の方が肯定的な回答となっています。特に差が大きかったもの上位3つは「3 基礎学力」「6 進路指導・キャリア教育」「7 総合的な学習」でした。3項目とも生徒の肯定的な意見は90%を超えていました。これは、生徒が実感している学習環境や自分たちの頑張りが、保護者の方に見えにくいのかまたは、保護者の方がそれ以上の段階を求めているためと考えられます。そのために、さらなるの情報発信の充実や一人一人がより一層成長するための個別最適な教育へ力を入れてまいります。

※裏面に集計グラフがあります。

学校評価アンケート 集計グラフ

:よくあてはまる
 :ややあてはまる
 :あまりあてはまらない
 :あてはまらない
 :わからない

